

## 黒川地区 4月25日（金） 黒川ふれあいセンター

○参加人数 59名

### 【懇談会要約】

#### ■三戸（1番テーブル）

黒川でも人口減少と高齢化が進む中、「黒川に来る人」だけでなく、「黒川を離れる人」に対する支援も必要ではないかとの意見が出されました。ただし、その具体策の立案は容易ではなく、複雑な課題として受け止められています。生活に身近なJAめぐみの黒川支店の規模縮小などに不安を感じる住民も多く、今後の学校の統廃合により「帰省しても母校がない」という声も聞かれました。一方で、外国人との結婚により世帯数が増えている状況もあり、独身男性と外国人女性をつなぐ「結婚支援」も、これからの地域づくりにおける新たな視点として提案されました。

#### ■杉山（2番テーブル）

黒川地域における最も深刻な課題として、県道白川福岡線や中津川市蛭川方面の道路整備の遅れが挙げられました。免許返納後の高齢者が移動手段を失い、買い物難民になる可能性があるとして、移動販売車の導入など町としての対策が求められました。移住者の多さから活気ある地域と評価されつつも、単身者向けの住宅が不足しており、シェアハウスなど新たな住まいの整備が急務との声もありました。今後の定住促進には、住まいと交通の両面に対応する実効性のある政策が必要とされました。

#### ■伊佐治（3番テーブル）

移住者の多い黒川地区において、「なぜこの地を選び、何が良かったのか」を住民・行政・移住者が共有する場の必要性が提起されました。こうした対話により、町全体に好循環を広げていく可能性があるとの意見が出ました。また、山・川・農地といった自然資源を収益性の高い形で活用していく必要があるとの声もありました。廃校の活用については、都市部の起業家への貸し出しによって、町外から人材を呼び込む新たな拠点とする構想が語られました。

#### ■田口（4番テーブル）

黒川地区の将来を考える中で、最初に取り上げられたのは「農地をどう守っていくか」という視点でした。現在は限られたオペレーターが作業を担っていますが、人的・経済的に限界があり、このままでは維持が難しくなるとの危機感が示されました。そのため、黒川だけでなく町全体として農業地域をどのように存続させていくのか、長期的かつ包括的な方針づくりが必要であるとの意見が出されました。また、学校統廃合の影響が住民の生活意識や居住選択にも及んでいる現状が語られました。「子どもが通うのは白川の学校になるだろう」という声や、「黒川には愛着があるが、白川には未練がない」といった住民の発言からも、教育政策が地域の存続に直結する大きな要因であるという認識が共有されました。学校統合に対しては賛否が分かれており、行政が地域の将来をどのように考えているのか、その姿勢が問われているという意見もありました。

#### ■佐伯（5番テーブル）

若者の流出要因として、道路などインフラ整備の遅れがまず指摘されました。子育て支援においては、賃金水準の低さを補う支援制度の充実が必要との声がありました。黒川地区では、都市部に移った住民が草刈りなどの美化活動の際に戻ってくる例もあり、これは地域との持続的なつながりの一例として紹介されました。移住者が多い黒川ならではの関係性であり、他地区にも参考となる可能性があるとされました。

#### ■梅田（6番テーブル）

「このままでは人口が半減する」という強い危機感が冒頭から共有されました。町の統計では黒川に700世帯以上あるとされていますが、実態は570世帯程度ではないかとの指摘もあり、現状把握の見直しが求められました。重点課題として道路整備が挙げられ、昼夜を問わず工事を進めてほしいという住民の強い要望が語られました。また、地域の自然や農業の価値を再認識し、それを外に向けて発信することも重要とされ、移住者を含めて「楽しく老後を暮らせる環境づくり」が求められました。

#### ■今井（7番テーブル）

最も多くの意見が集中したのは道路整備に関する内容でした。特に、2車線化への期待が高く、部分的な整備では不十分との意見が出されました。峠道についてはトンネル化が理想とされましたが、現実的には早急な拡幅整備が求められました。また、リニア中央新幹線の開通を見据えた中津川方面へのアクセス向上が、町の発展につながるという見方も示されました。住民と行政が連携し、段階的に課題解決へ向けて動き出すことの必要性が強調されました。

#### ■渡辺（8番テーブル）

移住者からは、白川町は「人が温かく、平和に暮らせる町」との評価がある一方、さらなる移住促進のためには町の魅力をもっと明確に発信すべきとの意見が出ました。有機農業が注目されており、これを町の強みとして育てていくことで、PR効果を高められる可能性があると考えられました。また、道路整備の遅れは限界集落化を招くとの危機感も共有され、インフラ改善が求められました。有害鳥獣による農業被害を逆手に取り、ジビエ料理など新たな活用策も提案されました。

#### ■藤井（9番テーブル）

黒川地区の最重要課題として「道路整備の遅れ」が改めて指摘されました。長年の要望にもかかわらず改善が進まないことに対する不満が強く、迅速な対応が求められています。また、移住者が消防団活動などに自発的に参加している事例が紹介され、こうした努力に対し、地域側も積極的に受け入れる姿勢を示すことが必要との意見がありました。移住者と地元住民が自然に交流できる機会を意識的に設けることで、地域の一体感を高めていく重要性が語られました。

#### 【黒川地区のまとめ・特性】

道路整備の遅れが大きな課題として繰り返し指摘され、買い物や医療へのアクセスの悪化が、定住の妨げとなっていることが共有されました。一方で、移住者の定着率が高く、消防団や地域活動への参加など、地域との調和が進んでいることも評価されました。学校再編や教育政策への不安の声もあり、地域の将来を見据えた行政の姿勢と実効性ある支援が強く求められています。